

中津川市農業振興ビジョン(案)の意見募集結果に対する市の考え方について

ご意見と市の考え方(回答)

No	意見内容(要約)	市の考え方(回答)
1	・第1章 3. 中津川市農業の現状と課題 農地を取得し(借り)たいが、どのようにしたらいいか。	相談窓口は中間管理機構、JA、農業委員会、農業振興課のどちらでも受け付けています。
2	・第1章 3. 中津川市農業の現状と課題 後継者が41%確保とあるが、どのような調査の結果か。	令和元年度に、農業委員会が市内の農業者に対して行ったアンケート調査の結果に基づくもので、回答をいただいた方の集計となりますのでご理解をお願いします。
3	・第1章 3. 中津川市農業の現状と課題 「必要な取組」欄に「具体的な例」を記載する。	「必要な取組」欄は「第3章主要施策の展開」の見出し部分を抜粋したもので、P15にてスマート農業の具体例を記載しています。
4	・第1章 3. 中津川市農業の現状と課題 高齢就農者や離農者の悩みが記載されていない。	P9に「農家の意見・課題」で具体的な課題を示しており、それらに対する「必要な取組」として記載しています。
5	・第1章 3. 中津川市農業の現状と課題 ICT活用で費用対効果を記載しないと導入の是非が判断できない。また、畜産業者の休日確保できる仕組みがほしい。	ビジョンは政策方針を示すものであり、詳細な記載はしていませんので、ご理解をお願いします。農業生産における環境改善等は引き続き推進していきます。
6	・第1章 3. 中津川市農業の現状と課題 中山間地域でのスマート農業等は非効率で高コストとなる。	中山間地域でも利活用できる資機材もあり、効率化につなげられるよう情報収集及び研究をしていきます。
7	・第1章 3. 中津川市農業の現状と課題 個人での改善により、田の変形、10a以下が多い。 耕作放棄対策、中核的担い手作り、地域に合う機械化、法人組織化が必要。	引き続き課題解決に向けて検討してまいります。
8	・第1章 4. 中津川市農業の方向性 「みどりの食料システム戦略」は減収、病虫害被害に繋がスマート農業等では対応できない。	国の施策であり、ご指摘いただいた課題も含め議論が行われており、市としても様々な観点から課題解決に向けて進めていきます。
9	・第1章 4. 中津川市農業の方向性 就農時の生活・資金支援を強化し、収入安定を推進してほしい。	国や県の事業も活用し支援を行っており、経営をサポートし収入安定を図ります。

10	<p>・第1章 4. 中津川市農業の方向性 化学農薬や化学肥料の削減を推進し、学校給食をオーガニック給食にしてほしい。</p>	<p>みどりの食料システム戦略に基づき進めていきます。</p>
11	<p>・第2章 1. 基本理念 この地域特有の種子を市として保護すべきではないか。</p>	<p>専門性が必要なものであり、関係機関と連携し検討します。</p>
12	<p>・第2章 2. ①人・農地プランの実質化の推進 人・農地プランの実質化の推進について、参画方法が知りたい。</p>	<p>地域の担い手として認定農業者となつていただくことで、地域の中心的経営体として位置付けられ、参画していただくこととなります。</p>
13	<p>・第2章 2. ①人・農地プランの実質化の推進 優良農地以外の農地を守るため、兼業農家でもやっていける支援が必要である。</p>	<p>ご提案いただいた内容も含め農業振興策を推進していきます。</p>
14	<p>・第2章 2. ②持続的農業のための農業経営基盤強化 六次産業化等への支援は何処へ伺えばいいのか。</p>	<p>相談窓口は農業振興課です。</p>
15	<p>・第2章 中津川市農業の将来像 ～ 第3章 主要施策の展開 超特選恵那栗が不足しているので、当市でも適地に栗栽培を奨励してほしい。</p>	<p>P22 に記載のとおり、関係機関と協力し、引き続き栽培面積の拡大を図っていきます。</p>
16	<p>・第2章 中津川市農業の将来像 ～ 第3章 主要施策の展開 栗以外でも農商工連携の第6次産業化支援で農家の所得向上を図ってほしい。</p>	<p>P17 に記載のとおり、農産物の6次産業化を目指し、農家の所得向上支援を推進していきます。</p>
17	<p>・第2章 中津川市農業の将来像 ～ 第3章 主要施策の展開 リニアを農業面でも最大限活用する方策を考えることが重要。</p>	<p>関係部署とも連携し農業振興策を推進していきます。</p>
18	<p>・第3章 主要施策の展開 農業を法人化し給料で社員が生活できれば、農地の有効活用できると思います。</p>	<p>P14 に記載のとおり、集落営農の法人化を進めてまいります。</p>
19	<p>・第3章 第1節 1. 農地の確保と有効利用 農業機械の共同化によって高齢農家も営農できるため、財政的支援が必要。</p>	<p>頂いたご意見も含め、担い手確保について様々な観点で進めていきます。</p>
20	<p>・第3章 第1節 2. 地域の中核的担い手等の育成と確保 経営や最新情報について、研修会等の開催や現場訪問をしてほしい。</p>	<p>現場指導や情報交流を含む研修会を毎年行っているため JA または農業振興課へお問い合わせください。</p>

21	<p>・第3章 第1節 2. 地域の中核的担い手等の育成と確保</p> <p>○担い手組織の育成</p> <p>畦畔管理まで請け負う組織が必用で、アルバイト等による草刈隊などの結成が必要。</p>	引き続き担い手確保を進めてまいります。
22	<p>・第3章 第1節 2. 地域の中核的担い手等の育成と確保</p> <p>Iターンに対しての居と農地の確保。</p>	P14 に記載のとおり、引き続き新規就農者の確保を進めてまいります。
23	<p>・第3章 第2節 1. 経営所得安定対策の推進【スマート農業・農業DXの推進】</p> <p>中山間地域に合った資材は割高なため、補助金を充実してほしい。</p>	国や県の協力を得ながら検討していきます。
24	<p>・第3章 第2節 2. 農地の多面的機能の維持と保全</p> <p>〈主な施策〉「農地管理システムの導入」を記載する。</p>	「主要な施策」では現在取り組まれている施策を記載しているため未記載となります。
25	<p>・第3章 第2節 2. 農地の多面的農の維持と保全</p> <p>直払や多面の制度を全農家参加とし、事務局を市が担い市の施策に沿った活用をすべき。</p>	取り組み組織が自立した活動ができるよう、各取り組み組織の設立が求められていますのでご理解をお願いします。
26	<p>・第3章 第2節 3. 鳥獣害対策の推進</p> <p>鳥獣被害対策実施隊員の高齢化が進んでおり、隊員の養成に力を入れてほしい。</p>	若い方への啓発を行い、隊員確保を進めていきます。
27	<p>・第3章 第2節 3. 鳥獣害対策の推進</p> <p>地区を掛け持ちする駆除員がおり、市で有害鳥獣駆除員を雇用すべき。</p>	現状では鳥獣被害対策実施隊員のみで対応が可能な状況であるため専門員を雇用することはできませんが、隊員確保を推進していきます。
28	<p>・第3章 第2節 4. 地産地消と販路拡大の推進</p> <p>地産地消の大半はJAが請け負っており、JAが地産地消のためのシステムを作るようにならないとダメではないか。</p>	JAのみではなく、他の関係団体も含め取り組みを推進していきます。
29	<p>・第3章 第2節 4. 地産地消と販路拡大の推進</p> <p>福岡に給食センターができるが、地産地消ができるか。</p>	地産地消は中津川市内の農産物を市内で消費するものであり、特定の地域内での消費を指していませんのでご理解をお願いします。 学校給食だけでなくイベントでの直売等で消費促進を図っていきます。
30	<p>・第3章 第2節 4. 地産地消と販路拡大の推進</p> <p>自立型大規模農産物直売所(JAの専門部門)等があれば地域農業が盛んになる。</p>	関係機関と検討してまいります。

31	<p>・第3章 第2節 4. 地産地消と販路拡大の推進</p> <p>収益確保にはマーケティングが重要。通販等の消費者と直結する仕組みが必用(JA、直売所、担い手など)。</p>	P17に記載のとおり、引き続き販路拡大を推進してまいります。
32	<p>・第3章 第3節 畜産振興と家畜防疫対策の強化</p> <p>輸入飼料が多く、廉価で自国飼料を生産できるすべはない。</p>	各種支援策を活用しながら、国・県と連携し検討します。
33	<p>・第3章 第3節 畜産振興と家畜防疫対策の強化</p> <p>環境に優しい堆肥処理施設整備及び製品化により円滑な稼働及び販売促進を行う。</p>	関係機関の協力を得ながら検討してまいります
34	<p>・第4章 作物別振興策</p> <p>天候の影響が生産の安定確保につながっていないとあるが、水田では排水対策が大きく、根本的な対策が不可欠。</p>	排水対策も含め対策を検討していきます。
35	<p>・第4章 作物別振興策</p> <p>新規就農者の受入れ時に、土地の管理、水源の大切さ等理解して取り組んでもらう事も山間地方に定住する条件と思う。</p>	研修受け入れ時の面接等で、地域での役割等の重要性を説明するなどし、地域に寄り添った新規就農となるよう取り組んでいきます。
36	<p>・第4章 作物別振興策</p> <p>そばの栽培は気候に左右されやすく、表現と現実が乖離していると思慮する。</p>	内容を修正します。
37	<p>・第4章 作物別振興策</p> <p>落花生やさつまいもを振興作物として位置づけしてほしい。</p>	代表作物への位置づけについて検討してまいります。
38	<p>・第4章 1. 水稻</p> <p>行政と農協との協力で、高温障害など他で品種を変えるなど広く意見を聞くこと、米作りの低コスト化、米価下落を防ぐ中津川市独自の救済が必要。</p> <p>実現したい未来への実効性と効果を具体化できるかが重要。</p>	広くご意見を収集し、今後の農業振興を進めてまいります。
39	<p>・第4章 3-2 夏秋なす</p> <p>後継者不足であり、農地管理の人手がほしい。</p>	P14に記載のとおり、担い手及び新規就農者の確保を引き続き推進していきます。
40	<p>・第4章 3-5 その他の野菜</p> <p>具体的な支援はなにか。</p>	飛騨美濃伝統野菜の六次産業化や、イベントでの農産物販売経費など補助事業があります。

41	<p>・第4章 4. 栗・果樹 生栗と栗の街を総合的にデザインしていただきたい。</p>	<p>栗の活用については関係機関と連携して検討していきます。</p>
42	<p>・第5章 ビジョンの推進体制 ビジョン推進体制の文面の中に「計画の推進チェック機関」として「〇〇〇」を設けると追加記載する。</p>	<p>ビジョンの実効性を高めるため、進捗の確認を報告する方針ですが、チェック機関を設けることは検討していません。</p>
43	<p>・第5章 ビジョンの推進体制 地域農業会議を農地活性化のための事業等を推進するための会議にしてほしい。</p>	<p>その地域の農業における課題等を、その地域の方々と議論して進めていく予定ですのでご協力をお願いします。</p>
44	<p>・第5章 ビジョンの推進体制 農業振興課が主体となり地域農業会議でPDCAが実行される運営に期待したい。</p>	<p>期待に沿えるよう推進します。</p>
45	<p>・第5章 ビジョンの推進体制 「地域農業会議」が最重要であり、具体的な実施内容を記載すべき。</p>	<p>地域ごとに異なる課題等について、どうしていくかを議論する場として位置づけており、具体的な取り組みについてはこの会議の中で議論されます。</p>
46	<p>農業振興ビジョン策定には、JAにも積極的に参加していただくことが重要。農業者に目が向いていないような姿勢が見える。</p>	<p>ビジョン策定において農業政策審議会を開催し、JAをはじめ各関連団体の代表者が集まってご意見をいただきながら進めています。</p>
47	<p>市内各地域(地区)の特色ある振興策を記載する。</p>	<p>本ビジョンを策定後、各地域におけるビジョンの策定を進める予定としています。</p>
48	<p>全体に問題点とその対策を並べただけのような気がするが、具体的な施策をどのように展開していくのか。</p>	<p>ビジョンは政策方針を示すものであり、詳細な記載はしていませんので、ご理解をお願いします。</p>
49	<p>家族農業の在り方とその迫及を中津川モデルとして構築できるよう検討してほしい。</p>	<p>ご提案いただいた内容も含め検討してまいります。</p>